

金沢城を探る

金沢城の庭園



兼六園の翠滝

落差6.6m、幅1.6mの布落ちの滝で、瓢池に注ぐ。江戸時代後期(安永3年[1774])に整備された。

発掘された玉泉院丸庭園の池

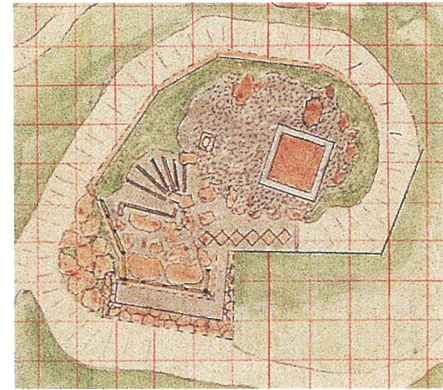
池の西岸には、石垣(根石)と玉砂利敷がある。東から池に張り出す出島の先端には、能登半島から取り寄せた景石を据え置く。(見開き④地点)

金沢城内とその隣接地には、玉泉院丸庭園や兼六園など、幾つもの庭園が存在した。

玉泉院丸庭園は、意匠性の高い石垣を巡らせた、風趣に富んだ個性豊かな庭園であった。

また兼六園は、幾度もの改修を経て、広大でさまざまな見どころをもつ庭園となり、近代以降も整備を重ねながら、特別名勝として今日に至っている。

これらの庭園は、金沢城の特質を知るうえで重要な遺構であり、改めて注目されている。



1855～1860年頃 「竹沢御屋敷総絵図」(金沢市立玉川図書館蔵)

兼六園 栄螺山の発掘調査

栄螺山は13代藩主斉泰が霞ヶ池を掘った土で築いた築山で、山頂には12代斉広を偲ぶ慰霊の三重塔が建つ。現在は安政年間の絵図の姿をおおよそ留めている。

山頂部の石垣解体修理に伴う調査では、石垣の背面に2段の古い石垣を確認し、安政年間以前に改修が重ねられていることが分かった。

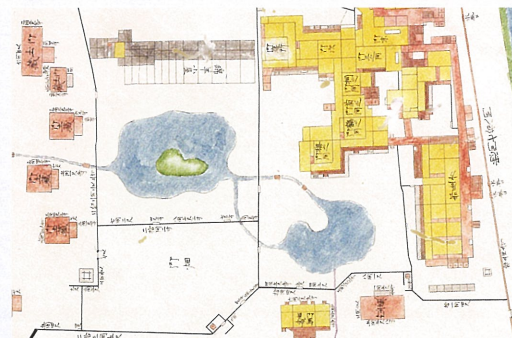


栄螺山
石垣全景

金沢城 庭園関連年表

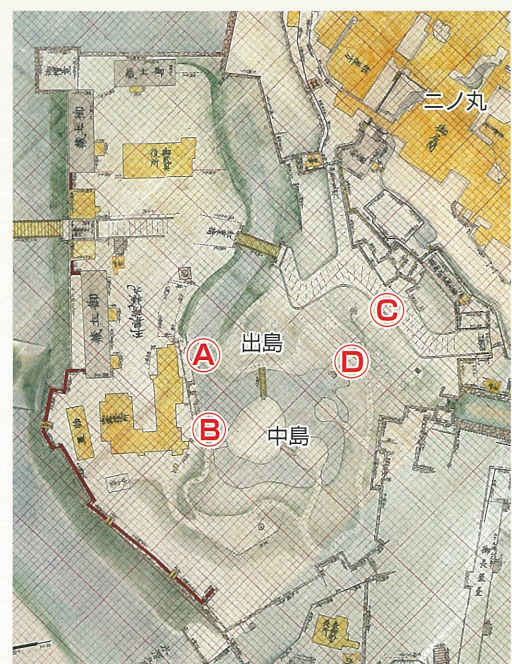
年代	藩主	主な出来事	金沢城の庭園
天正11	1583	初代 利家	前田利家が金沢城に入城する
江戸初期 (元和～ 寛永8)			本丸庭園(発掘調査)
寛永 7	1630	3代 利常	京から賢庭を招き、本丸に露地をつくる
寛永 8	1631		大火を契機に二ノ丸御殿を造営
寛永 9	1632		辰巳用水をつくり城内に水を引く
寛永11	1634		京都の庭師剣左衛門を招いて玉泉院丸に作庭
寛文元	1661		綱紀が初めて金沢城に入る
延宝 4	1676	5代 綱紀	玉泉院丸に厩を建て池を掘る
元禄元	1688		蓮池庭をつくる 馬場も完成
安永 3	1774	11代 治脩	千宗室に玉泉院丸の作庭を申しつける 厩をこわし、跡地に御亭・花壇づくりを命じる
文政 5	1822		翠滝と夕顔亭が完成する
天保 3	1832		松平定信(白河楽翁)から「兼六園」の扁額を受ける
天保 8	1837		玉泉院丸にカラカサ亭を設置
天保10	1839	13代 斉泰	霞ヶ池を掘り、栄螺山を築く 千歳台の曲水の付け替え等、大規模な作庭(～文久3[1863]頃)
嘉永 6	1853		栄螺山に三重塔を建てる
安政 3	1856		二ノ丸御殿の御広式・奥御居間を改修する
万延元	1860		二ノ丸の御居間先の庭や池を改修する
文久元	1861		玉泉院丸に滝をつくる
慶応 2	1866	14代 慶寧	蓮池門に「兼六園」の扁額をかける
			二ノ丸の御居間先に噴水をつくる
			金谷御殿泉水に滝を造営

① 金谷出丸



天保元年(1830)「御城中巻分基絵図」
(横山隆昭家蔵)

◆金谷出丸は、隠居した藩主やその妻子の御殿等として使われ、建物の改築が繰り返された場所である。絵図から御殿には池のある庭園が付随していたことが窺える。



嘉永3年(1850)「御城分間御絵図」
(前田育徳会蔵)

◆意匠性の高い切石積石垣群と大規模な池を中心とした回遊式庭園。廃絶後に埋め立てられた池や導水部の発掘調査で、高低差が際立つ庭園の姿が浮かび上がってきた。



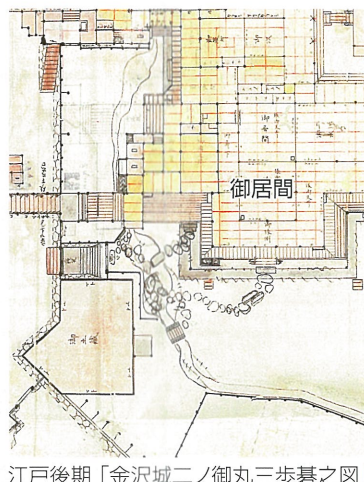
① 池底と中島、対岸の石垣痕跡を検出

金沢城の庭園

築城初期については史料に乏しいが、本丸の発掘調査によると、寛永8年(1631)の大火以前には池を伴う庭園が存在していた。寛永11年(1634)、二ノ丸南西の玉泉院丸において、本格的な回遊式庭園が整えられた。さらに延宝4年(1676)には、蓮池堀の対岸の台地縁辺に庭園(蓮池庭)が設けられた。これが今日の兼六園の起こりである。この他にも、御殿の御居間周辺には流れを伴う庭が備わっており、堅固な城郭は、一面では風雅な空間に彩られていた。



佐々木泉玄筆「二ノ御丸御好屋口ヨリ専光寺浜眺望図」(金沢市立玉川図書館蔵)



江戸後期「金沢城二ノ御丸三歩基之図」
(石川県立図書館蔵)

② 玉泉院丸



② 石垣群の要となる色紙短冊積石垣から一筋の滝を落とし、滝壺に石組を配置



③ 戸室石、能登産出の大型石材の石組による段落ちの滝

玉泉院丸北東部の石垣群と池跡
斜面裾に整備された滝石組

③ 二ノ丸

◆御居間廻りは二ノ丸御殿の中ほどにあり、藩主の日常生活空間、政務を執る場として機能した。絵図や絵画から窺える御居間先の庭は、御殿の一角にありながら、辰巳用水の豊かな水を引き入れることで流れを中心とする景色を生み出している。

⑤ 兼六園

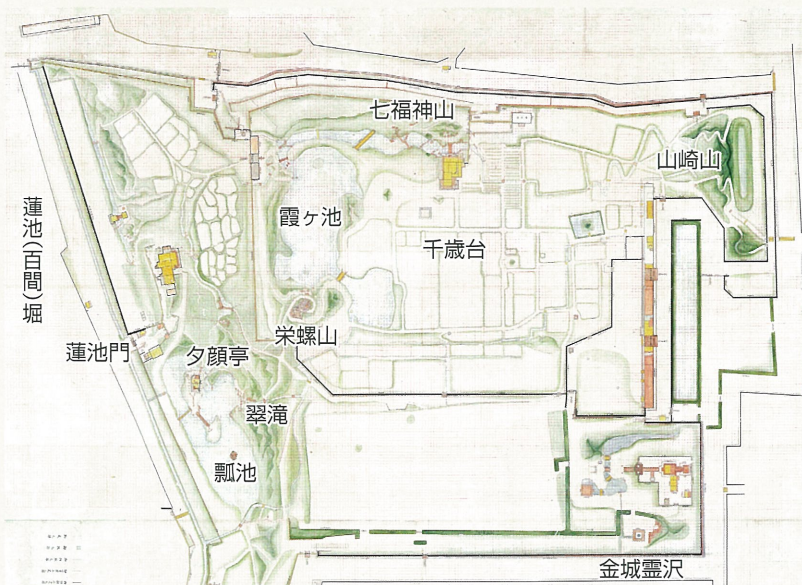
④ 本丸



池跡の調査(上)
景石(下)



◆本丸は初期の中核部であり、御殿を中心に藩主の執務・居住空間が整備された。発掘調査では本丸北西部で池跡が検出された。池の縁には景石が据え置かれる。寛永8年(1631)の大火で被災し、二ノ丸への御殿移転に伴い埋め立てられた。



1855～1860年頃「竹沢御屋敷総絵図」(金沢市立玉川図書館蔵)

◆5代綱紀の蓮池庭に始まり、以降歴代藩主による改修を経て13代斉泰の手によって拡張され、千歳台全体に広がる広大な庭園となった。



11代治脩による蓮池庭整備の際、瓢池の中島に「滝見の御亭」として完成した「夕顔亭」